作成年月日	令和６年９月 24 日
作成部局課室名	農林水産部畜産課

神戸ビーフ供給力強化対策の推進状況

１　趣旨

国内外の神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛（めすうし）の増頭促進や受精卵移植による肥育素牛増産対策を推進するとともに、更なる需要拡大対策として、輸出先国の求めに見合った出荷・と畜体制の整備や国内外への情報発信の強化を図っていく。

２　令和５年度の繁殖雌牛の増頭実績

（１）国内外の神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛の増頭に取り組んでおり、令和12年度の目標は16,000頭（「ひょうご農林水産ビジョン2030」）としている。

（２）令和５年度の但馬牛繁殖雌牛の実頭数は13,824頭（(公社)全国和牛登録協会調査）と、前年から169頭の減少となった（表１）。

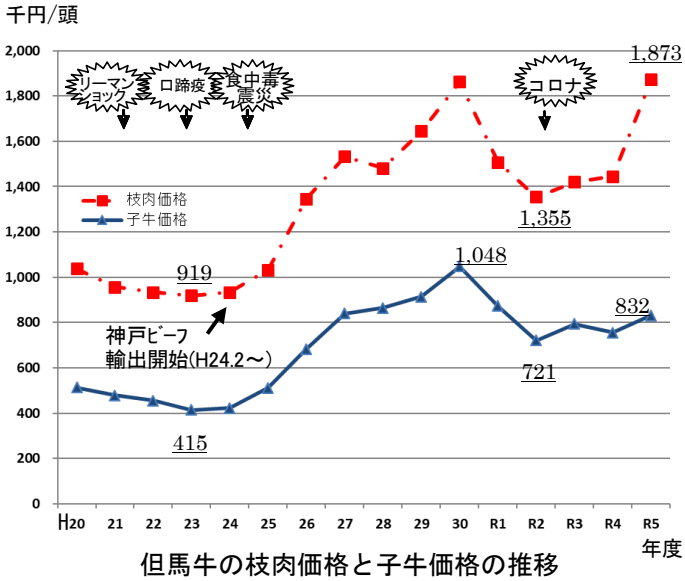
（３）増頭が鈍化している主な要因は、若手や法人の繁殖農家が50頭以上の牛舎整備等により、増頭を進める一方で、飼料価格の高止まりなどによる経営の圧迫や高齢による廃業が増加し、繁殖雌牛の廃用頭数が、導入頭数を上回ったためと考えられる（表１）。

（４）神戸ビーフはインバウンド需要や好調な輸出（R5年度68.5t）により、令和５年度枝肉価格が急騰しており、一層需要の高まりが予想されることから、引き続き供給力強化対策を推進する。

【表１】但馬牛繁殖雌牛頭数

年　度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R12 目標
頭　数	13,158	13,482	14,060	14,145	14,001	13,993	13,824	16,000
新規登録頭数	1,530	1,611	1,805	1,844	1,681	1,711	1,621	－
廃用頭数	1,297	1,287	1,227	1,759	1,825	1,719	1,790	－
前年比	＋233	＋324	＋578	＋85	△144	△8	△169	－

３　但馬牛の枝肉及び子牛価格と今後の展開



但馬牛の枝肉価格と子牛価格の推移

【枝肉価格の動き】
※価格は景気、牛肉に関する事件・事案の影響を受ける。
① H15-19：牛肉のﾄﾚｻﾋﾞﾘﾃｨｰ制度の確立により全国的に上昇
② H20-23：景気低迷、口蹄疫の影響等による消費減退で下落
③ H24-30：各種増頭対策の充実と総合的推進の結果、Ｖ字回復
④ R1-2：消費の鈍化、コロナ禍により価格が低下
⑤ R3-4：回復傾向に帰するとともに輸出量が過去最高を更新
⑥ R5:インバウンド需要の拡大等により**過去最高価格まで急騰**

【子牛価格の動き】
・**枝肉価格と連動して推移**し、H24 以降、雌牛導入の支援の充実やブランド力強化、輸出等の総合的な対策により**Ｖ字回復**
・**R1 年度以降下落基調であったものの、R3 年度以降、高値傾向で推移**

【今後の展開】
物価高騰により和牛肉の需要が減退し、全国的に枝肉価格や子牛価格が低迷する一方、神戸ビーフは、今後もインバウンドや輸出等により強い需要が続くと予想され、枝肉価格、但馬牛子牛価格ともに引続き高値で推移すると見込まれるため、一層の増頭・増産が必要である。

４　但馬牛繁殖雌牛の増頭と神戸ビーフの増産対策

（１）繁殖雌牛の増頭対策

ア　新規就農者や規模拡大による牛舎整備

国や県事業等を活用した牛舎整備を支援している。

50 頭以上の大規模な牛舎整備から、10 頭前後増頭する既存牛舎の補改修も増えている。

【表２】牛舎の整備状況

年度	国・県事業	制度資金	平均整備規模
R1	4 戸　250 頭	2 戸　55 頭	50.8 頭／戸
2	5 戸　267 頭	0 戸　0 頭	53.4 頭／戸
3	6 戸　321 頭	1 戸　40 頭	51.6 頭／戸
4	4 戸　214 頭	0 戸　0 頭	53.5 頭／戸
5	6 戸　289 頭	0 戸　0 頭	48.2 頭／戸

イ　繁殖雌牛の導入支援

県事業や国事業を活用した繁殖雌牛の導入を支援している。

近年、概ね 1,200～1,500 頭で推移している。

【表３】補助事業を活用した導入頭数

年度	県事業	国事業等	計
R1	900 頭	314 頭	1,214 頭
2	900 頭	794 頭	1,694 頭
3	834 頭	645 頭	1,479 頭
4	700 頭	524 頭	1,224 頭
5	520 頭	678 頭	1,198 頭

ウ　新規就農者の状況

毎年、10 人以上の独立または雇用就農がある。

【表４】新規就農者の状況

年度	独立就農	雇用就農（うち法人）	計
R1	8 人	11 人（ 7 人）	19 人
2	11 人	5 人（ 5 人）	16 人
3	3 人	13 人（ 8 人）	16 人
4	4 人	12 人（ 10 人）	16 人
5	8 人	10 人（ 7 人）	18 人

エ　繁殖経営支援センターの運営支援

規模拡大者･新規就農者等の経営効率化や経営安定化を図るため、分娩直前の繁殖雌牛を供給する繁殖経営支援センターの運営を支援している。

オ　畜産参入支援センターによる参入支援

令和元年度より畜産課内に「畜産参入支援センター」を設置し、総合窓口として市町、ＪＡ等と連携して、施設用地の掘り起こしや紹介、補助事業による支援策の活用相談等を行っている。これまでに民間企業（機械メーカー、通関業）等からの新規参入や繁殖・肥育一貫経営農家による規模拡大のための施設用地の取得が実現している。

【表５】畜産参入支援センターを通じた取組状況

年度	場所	取組形態	飼育頭数（R5 年度末）	目標
R1	姫路市	新規参入	繁殖雌牛 8 頭、肥育牛 8 頭	繁殖・肥育 50 頭
2	淡路市	新規参入	繁殖雌牛 22 頭	繁殖雌牛 24 頭
3	加西市	規模拡大	牧草地利用（施設整備予定あり）	（計画中）
	淡路市	新規参入	繁殖雌牛 7 頭	繁殖雌牛 20 頭
5	加西市	新規参入	廃業した酪農牛舎を利用	繁殖雌牛 25 頭

カ　耕畜連携による飼料の増産

飼料や肥料の価格高騰と循環型畜産に対応するため、耕種農家が牛ふんたい肥を活用して稲発酵粗飼料（WCS）用稲を生産。畜産農家が収穫した稲をラッピングして発酵させ、栄養価を高めた WCS を給与する取組が拡がっている。

【表６】WCS 用稲の作付面積

年度	作付面積
R1	789ha
2	797ha
3	866ha
4	940ha
5	972ha

WCS 用稲の収穫

（２）神戸ビーフの増産対策

ア　受精卵移植による神戸ビーフ素牛の生産拡大

但馬牛繁殖雌牛から採取した受精卵を酪農家や交雑種を肥育する農家等の雌牛に移植する受精卵移植の普及を進め、但馬牛肥育素牛の生産拡大に取り組んでいる。

令和５年度は酷暑の影響で採卵、移植成績とも伸び悩み、生産頭数は前年を下回った。

【表７】受精卵移植による但馬牛生産頭数

年次	頭数
R1	299頭
2	366頭
3	434頭
4	488頭
5	412頭

※R5 は速報値

イ　神戸ビーフの認定率の向上

県立農林水産技術総合センターが作成した「但馬牛肥育マニュアル」の普及定着に伴い、肥育農家の飼育管理技術の向上が図られたことや育種改良によって、神戸ビーフの認定率は 90％を超えて推移している。

【表８】神戸ビーフの認定頭数と認定率

年度	認定頭数	認定率
R1	5,639 頭	87.2%
2	6,120 頭	90.1%
3	6,298 頭	92.2%
4	6,623 頭	92.1%

５　神戸ビーフの需要拡大対策

（１）輸出拡大の取組

欧米向けには、和牛マスター食肉センター（姫路市）が中心となり、動物福祉に配慮した家畜の管理や現地でステーキ以外の調理法のプロモーションを進めるとともに、台湾向けには、神戸市立食肉センターが中心となり、日本料理店でのフェア等を継続。

また、和牛マスター食肉センターでは、海外 10 カ国以上からバイヤーを招き、和牛オークションを実施。

なお、令和５年度は、三田食肉センターからサウジアラビアへの輸出が急増するなど、神戸ビーフの輸出量は 68.5t に上り、今や世界 42 カ国・地域で食されている。

和牛マスター輸出拡大コンソーシアムによるカットデモンストレーション（ミラノ）

【表９】神戸ビーフの輸出先と輸出量　　単位：t

地域	欧州	北米	アジア							オセアニア	その他※2	合計
輸出先	EU 等※1	米国 カナダ	台湾	香港	シンガポール	フィリピン	マカオ	UAE	サウジアラビア	オーストラリア		
R1 年度	11.58	5.33	4.97	2.34	2.21	0.20	1.48	1.06	－	0.47	5.81	35.40
2	9.6	9.82	10.46	3.94	2.35	1.14	2.13	1.48	－	2.27	1.44	44.63
3	22.84	14.71	8.47	8.42	1.85	3.39	0.33	4.88	－	6.15	2.06	73.12
4	21.77	14.24	8.45	9.31	1.12	4.57	0.04	7.72	0.72	6.45	3.39	77.79
5	19.78	15.85	6.12	3.77	1.12	2.08	0.28	3.06	10.24	3.88	2.35	68.51

※1 ドイツ、モナコ、デンマーク、ベルギー、オランダ、フランス、スイス、イギリス、スペイン、イタリア
※2 メキシコ、ベトナム、タイ、ロシア、カタール、マレーシア

（２）ひょうごフィールドパビリオン「神戸ビーフ館」、「但馬牛博物館」における情報発信

ア　神戸ビーフ館の取組

神戸ビーフ館（新神戸(コトノハコ神戸)）では、神戸肉流推進協議会が小学生を対象に令和４年度から継続して“但馬牛・神戸ビーフ応援大使”の大畑大介氏らとともに、但馬牛・神戸ビーフの歴史や魅力を学び、体験するセミナーを開催している。

神戸ビーフキッズセミナー
（神戸ビーフ館）

イ　県立但馬牧場公園の取組

県立但馬牧場公園では、但馬牛を学び、触れて、食することができるプログラムにより、世界農業遺産をはじめとする但馬牛の歴史や魅力を発信している。

特に、同公園内の但馬牛博物館では、国内の畜産分野で初めて世界農業遺産に認定された「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」について学ぶことができる。

プログラムによる但馬牛のブラッシング体験（県立但馬牧場公園）

（３）美味しさ指標を活用した有利販売と環境負荷軽減への取組

「美味しさ」の指標であるモノ不飽和脂肪酸※1や小ザシ※2 のデータを県内食肉市場で収集し、生産現場、食肉流通現場に分析結果を提供するとともに、但馬牛の改良に活用している。

また、牛肉の美味しさの指標のひとつである「モノ不飽和脂肪酸」含有量を県下の主要食肉市場で表示販売し、神戸ビーフの有利販売につなげている。

加えて、肥育牛の飼料中のタンパク質を低下させ、肝臓への負担や窒素排泄物を減少させる気候変動に配慮した環境負荷軽減に寄与する試験研究にも取り組んでいる。

モノ不飽和脂肪酸の測定

※１　オレイン酸等不飽和結合が一か所ある脂肪酸で、牛肉の風味に影響

※２　筋肉内脂肪のうち細かい脂肪交雑粒子で細かなサシ

（４）ブランドの管理

神戸肉流通推進協議会では、本県の県有種雄牛のみを歴代に亘り交配した但馬牛（うし）を素牛とし、繁殖から肉牛として出荷するまで当協議会に登録された生産者が県内で飼育し、県内の食肉センターに出荷した牛のみを“但馬牛（ぎゅう）”、そのうち一定の条件に該当するもののみを“神戸ビーフ”と認定している。

なお、但馬牛（ぎゅう）、神戸ビーフは平成 19 年に地域団体商標の登録を受けるとともに、平成 27 年には地理的表示保護制度に基づく登録産品に認定されるなど、国内外でブランドの保護体制が確保されている。

また、神戸肉流通推進協議会は、「海外における神戸ビーフブランド管理・需要拡大運営委員会」を設置して、主要な輸出先 11 カ国に委員を配置し、偽物等に対するブランド管理の強化と更なるＰＲを行うほか、ＤＮＡ鑑定検証システムによるブランド偽装防止体制も構築している。

【表10】「神戸ビーフ」「但馬牛（ぎゅう）」の定義

<table>
<tr><td>歩留等級</td><td colspan="12">「A」 又は 「B」</td></tr>
<tr><td>肉質等級</td><td>1</td><td>2</td><td colspan="2">3</td><td colspan="3">4</td><td colspan="5">5</td></tr>
<tr><td>脂肪交雑</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブランド</td><td></td><td colspan="4" rowspan="2">28～60 ヶ月齢</td><td colspan="8">「神戸ビーフ」
雌：270～499.9kg、去勢：300～499.9kg</td></tr>
<tr><td colspan="8">「但馬牛（ぎゅう）」</td></tr>
</table>

〈問い合わせ先〉

農林水産部畜産課肉用牛振興班　TEL０７８－３６２－３４５４